

資料1

都市・防災・環境部会

5月9日（木）開催

<快適で魅力ある住環境>

多 様 性

発言内容

- ① ワンルームマンションに住む若年層や外国人は、町会などのコミュニティに属さない人が多いので、地域とつながる支援があると良い。
- ② 若い世代が結婚し、子育て世帯になってもずっと住み続けたいと思えるまちづくりをすると良い。

答申のイメージ

- ① 単身世帯の若年層や外国人が、地域コミュニティに参加している。
- ② 結婚し、子どもを持って、ずっと住み続けたいと思えるまち。

スタートアップ

発言内容

- ① 開発により変化していくことばかりではなく、今の中野らしさを守っていくことも大切である。
- ② フィルムコミッションなど、新しい活動ができる空間があると良い。
- ③ 遊具のある公園もいいが、なにもない広場だけの公園もあると良い。
- ④ 区の予算にも限りがあるので、実証実験などの手法を取り入れるのも良い。

答申のイメージ

- ① 変わるものと変わらないものが共存し、中野らしさが形作られている。
- ② 中野の景観や空間を活用し、新たな活動が生まれている。
- ③ 公園は、それぞれの個性を持ち、様々な形で利用されている。
- ④ 中野から新たなサービスを発信する実験的な試みが行われている。

発言内容

協 働

- ① 区民がまちづくりに参加できる仕組みがあると良い。
(例えば、中野通りの桜を誕生日などに植樹できるなど、町会などの団体としての参加だけでなく個人単体でもアクションを起こせるような仕組み)
- ② 中野区は公園が少ないので、空き家を取り壊してポケットパークにするなど、地域の人が集まって顔を合わせられる場に活用できると良い。
- ② 空き家を空地にするといろいろと活用できるが、地域で相談して対応していくことも考えられる。
- ③ 相続などで住宅が細分化されることで、単身者用の住宅が増え、高齢者の孤独死も増加しているため、支援が必要である。

答申のイメージ

- ① 区民一人一人が、それぞれ関心のある地域活動に参加している。
- ② 地域のコミュニティの場として、空き家が有効活用されている。
- ③ 一人暮らしの高齢者が、地域で孤立せずに暮らしている。

発言内容

そ の 他

- ① 中野区は道路が狭く、セットバックしても電柱が残ってしまっていて歩道が狭いままなので、電線の地中化が必要である。
- ① 快適で魅力ある住環境としては、まず、安心安全に歩ける歩行者空間が必要である。
- ② 中野区は23区でも公園が少ない。子育て世帯に定住を促すには公園の拡充が必要である。
- ③ 住みたい、住み続けたいまちとしては、交通機関へのアクセスなど、移動の充実が必要である。

答申のイメージ

- ① 無電柱化が進み、安心・安全な歩行者空間が確保されている。
- ② 公園は、いつも子どもや親子でにぎわい、地域の魅力となっている。
- ③ 誰もが、快適に移動することができる交通ネットワークが整っている。

<世界に開かれた都市活動とにぎわいの拠点>

多 様 性

発言内容

- ① 中野には、様々な価値観を受け入れる懐の広さがある。(ex.まんだらけ)ほっとするか、楽しいことがあるとか、今あるまちのイメージを大事にする必要がある。
- ② 中野の駅前には1,000点以上の飲食店があり、外国人の来訪者も増えている。選択肢がたくさんあるというイメージを大事にする必要がある。
- ② 中野にはサブカルだけでなく伝統文化もある。一つに絞られない、可能性が高いまちとしてのイメージを大切にしなければならない。

発言内容

協 働

- ① 新しいサンプルも、小さな演劇などもできるような、一緒に育っていける場としての活用がされると良い。

答申のイメージ

- ① 多様な文化や価値観が集まることで、まちの活気となっている。
- ② 世界中の人が訪れ、サブカルチャー、飲食街、伝統文化など、中野ならではの多彩な魅力を楽しんでいる。

答申のイメージ

- ① 最先端の文化活動や商業活動と、区民の身近な文化活動が共存している。

スタートアップ

発言内容

- ① 四季の都市には、麒麟などの世界的なメーカーがあり、明治大学や帝京平成大学には国際的な学部がある。こういったものをつなげるネットワークが必要である。
- ① 中野で芸能・芸術活動をしている人がたくさんいるが、ネットワークがうまくいっていない。一体となって世界に発信していけるつながりが必要である。
- ② 地方から東京にきて初めて住むまちが中野という人も多い。外国人にも日本に来て初めて住むまちが中野というイメージ戦略も良い。

発言内容

そ の 他

- ① 中野では近年、病院などの拠点の大幅増など強みがたくさんあるが、他の地域に知られていないので、多様なツールを使った広報の強化が必要である。

答申のイメージ

- ① 企業や大学等の多様な主体がつながることで、新しい魅力が創出され、世界に発信されている。
- ② 新しい生活が始まるまち。

答申のイメージ

- ① 中野の魅力や出来事が広く発信され、区外の人々に伝わっている。

<地域のにぎわいの創出・再生>

多 様 性

発言内容

- ① 中野区は縦に長く、同じ中野区に住んでいたとしても地域によって特徴が違うので、それぞれの地域に合ったまちづくりが必要である。
- ① 地域で活動している団体は、地域の特性もよく知っているのでよく話を聞く必要がある。
- ② 坂が多い地域などがある。高齢者の近くに、すぐに買い物に行ける、商店街や商店が必要である。
- ③ 商店はものを売るだけでなく、そこで話をするとか、子どもが買い物を通して、最初に社会に触れる体験ができる場でもある。商店街の活性化が必要である。

答申のイメージ

- ① 地域の特徴や歴史、人のつながりが、まちづくりに生かされている。
- ② 歩いて買い物に行ける身近な商店街。
- ③ 区民の交流と、子どもの社会体験の場としての商店街。

スタートアップ

発言内容

- ① 西武新宿線沿線では、バス通りにもかかわらず、道が狭く、朝などは踏切が開かず、不便さを感じている住民が多いので、解決する必要がある。
- ① 線路があると、地域がそこで遮断されてしまうので、地下化の推進が必要である。
- ② 西武新宿線が地下化されたあとの上部活用として、カフェや飲食店もある遊歩道の様なにぎわいの場になるといい。
- ③ 住むところ、働くところ以外の場として、賑わいと繋がりofサードプレイスの魅力を創出できるといい。

答申のイメージ

- ① 西武新宿線沿線では、鉄道の連続立体交差事業が進み、交通の利便性が向上している。
- ② 鉄道の連続立体交差事業後に供出されたスペースには、地域の憩いやにぎわいの場が新たに創出されている。
- ③ 職住のみならず、賑わいとつながりの場が生まれている。

発言内容

協 働

- ① 地域の益踊りなど、地域で継続してやっていることを、区と一緒にできると良い。
- ② 今、地縁や地場のつながりを求められているので、地域で人がつながれる仕組みが必要である。
- ③ 空き家の活用してプレイパークなどを作って、高齢者も子どもも集まれるにぎわいの場にできると良い。
- ③ 空き店舗は、ギャラリーや雨宿りできる場所など、地域に合った活用のされ方をすると良い。
- ④ 区民活動センターの空きスペースなどを利用して、町会でコーヒーサロンを開いたり集まれる場所を提供している。行政に頼るだけでなく、地域住民としても賑わいの創出のためにできることを考えないといけない。

答申のイメージ

- ① 区は、区民とともに地域のにぎわいを生み出している。
- ② いつでも誰でも、新たに地域に参加することができる。
- ③ 地域のにぎわいの場所として、空き家や空き店舗が有効活用されている。
- ④ 区民の主体的な活動で、地域のにぎわい空間が生まれている。

発言内容

そ の 他

- ① 道路が狭くて資材を搬入できず、建て替えられない地域もあるので、狭隘道路の拡幅が必要である。

答申のイメージ

- ① 区内の道路ネットワークが構築され、交通の円滑性が向上している。